

対決・提案・共同で市政を動かす「かけがえのない議席」



日本共産党

市議会議員 党釧根地区委員長

村上かずしげ

1959(昭和34)年、岩手県生まれ55歳。弘前大学人文学部を卒業、1982(昭和67)年、(株)日本旅行に入社、釧路営業所に勤務。職場を退職後、日本民主青年同盟釧根地区委員長などを経て釧路市長選(2回)と総選挙に立候補。2001(平成13)年、釧路市議会議員に初当選、現在3期目、共産党議員団幹事長。阿寒町北新町町内会長、勤医協友の会阿寒支部長なども務めている。犬3匹が同居人。家族は娘(大学2年生)

足かけ15年、ハンドマイクで週三回、橋のたもとで街頭演説

いつでも地域住民と二人三脚

鳥取団地の建て替え、昭和中央の土地区画整理組合の賦課金問題、昭和北・星が浦・鶴野の雨水対策、フィットネスセンター廃止や新図書館の民間ビルへの間借りなど。住民要求のあるところに飛び込んで、一緒に運動してきました。「私たちの声を議会で代弁してくれる大事な議席」と信頼を集めています。



阿寒病院を民営化すると市長が突然提案。有権者過半数の反対署名を集め、議会で追及、ついに白紙撤回させました。与党議員も「阿寒病院民営化は合併後の最大の失敗」と言っています。

8月6日、原爆記念日に生まれた娘に平和の祈りの千羽鶴にちなんで「千鶴」とつけました。平和と憲法を地方政治に活かします。



妻が亡くなったのは娘が3歳の時、以来、親子二人の父子家庭街道をまっくら。子どもの成長が何よりの励みでした。母子家庭の問題も積極的に取り上げ、ひとり親世帯のヘルパー制度なども実現しました。



実家は東日本大震災の津波で跡形もなくなりました。親類や友人にも犠牲者が出ました。災害に強い街づくりがライフワークになりました。村上かずしげ議員の提案で、鳥取南・市営住宅は避難機能が併設されます。

全ての定例議会で欠かさず質問

村上かずしげ議員は初当選以来、全ての定例議会で本会議質問に立ってきました。



忘れられないのは、子どもの国保の保険証取り上げ問題です。「収入が減って国保料が払えず、保険証が取り上げられました。子どものぜんそくの薬もありません。」との相談が舞い込みました。保険料の未納は問題ですが、子どもの命にかかわる問題です。「子どもの命を人質に納付を迫るやり方は問題。子どもには無条件で保険証を交付せよ。」と迫り、子どもからの保険証取り上げをやめさせました。全国的にも画期的なできごとでした。

この成果が全国に広がり、今では法律で子どもの国保の保険証の取り上げが禁止されました。

合併で阿寒 音別は1/4も人口減!?

釧路市・阿寒町・音別町の合併からちょうど10年、合併の弊害も目立ってきました。音別町の「中学校卒業まで医療費無料」制度はあっさり廃止。阿寒・音別はこの10年で人口が1/4も減りました。地元の行政センターでは結論が出せず、何度も釧路市役所に行かないと用がたせないこともしばしばです。

「問題点を洗い出すために全世界帯にアンケートを」と求めましたが、市長はあっさり拒否しました。音別在住の議員もいなくなります。こうした地域の声をくみあげる議席が議会にはどうしても必要です。



音別で開いた共産党議員団の議会報告会

市町村合併のゆがみを正します